

## INDEX

- ① 巻頭言
- ② 法人たすきリレー
- ③ シロガマ・ウイマラ師追悼
- ④ 児童施設より
- ⑤ 高齢者施設より
- ⑥ 法人栄養士研修
- ⑦ ステップアップ研修
- ⑧ 海への里帰り
- ⑨ 法人研究発表会お知らせ
- ⑩ 役員会

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

### 巻頭言

## 「台風」

理事長 辻村 泰範

子どもの頃、下駄や草履など履き物を前の方に高く蹴り投げて明日の天気を占う遊びがあった。裏返ると「明日は雨やー」と言っただけ、またやってみると言うたわいも無い遊びだ。空や雲の様子を見て天候を予測する観天望氣からはほど遠く、てるてる坊主のような祈りも願ひもほとんど込められてはいないのだから、当たるはずもなく当たることも思っていなかった。

九月一日は二百十日、二百十日も二百二十日も台風がやって来る確率の高い日だと、これは学校でも習った。立春から数えてのことだ。経験則に基づく長期予報だが案外当たっていた。台風一過、野分の明日は清々しい好天に恵まれるとも言われてきた。

昔の人たちは多少の誤差は織り込みで、覚悟を決めていたと言えるのかも。そして大嵐がすぎると次の日の朝には嘘のように青空が。痛んだところを修理

し、倒れた柵を立て直して平穏な日々がまた始まるのだ。

台風11号も12号も、遠く離れた洋上で生まれた瞬間から報じられ、テレビでは毎日その動きや勢力などが伝えられ日本全国を一喜一憂させた。11号は、九月初旬に韓国南部に上陸して大きな被害をもたらした。こちらはホツとしたといえば、不謹慎の誹りを免れまい。どこであっても自然災害は御免被りたいものだ。

ところで、毎年決まってやって来られたスリランカのシロガマ・ウイマラ大僧正が三年前の十月に来日されたのを最後に、この五月五日とうとう旅立ってしまった。満六十九歳だった。五十年のお付き合いだ。

来日の予告が入ると、ご縁のつながっている方々に情報を流しスケジュールの調整などで多くの人の渦が出来上がる。彼を渦の目にして日本列島を縦断するのだから、さながら小さな台

風だ。

台風が来るぞ、身内での合言葉は本物の台風を指しているのではない。決まってやって来るとはいえず、こちらはいつも私たちに刺激を与えてくれる存在だ。「ポーツと生きてんじゃねーぞ！」チコちゃんじゃないが、みんなに喝を与えてくれた。

彼の来日目的は、スリランカの恵まれない子どもたちを支援する人々を集めることである。具体的には支援金を集めることである。そのためには直接人々に会って説明し、気持ちを伝える共感者を増やすことである。かつて我々の先達が事業を起し進めてゆくために避けて通れなかったその道を彼は実践していた。

行政に陳情して解決できる状況ではない、そんな母国の福祉に身を投じていた僧侶の姿が目には浮かぶ。我々が彼に学ぶことは多かった。



梅寿荘50周年記念祝賀会  
を記念してメッセージを  
いただきました



『祝辞』 小紫 雅史 生駒市長



## 想いを繋ぐ法人たすきりしー

長谷川 明美さん

### 新シリーズ・第2回

創立五十周年おめでとうございます。

買い物奉仕ボランティア 長谷川 明美

この度、梅寿荘の開設から半世紀の刻を無事に迎えられ、まことにおめでとうございます。私自身、いつの間にか歳を重ねに重ね今年で88歳になりましたが、こうして50年にわたり細く長いお付き合いを続けることができ、梅寿荘の発展に少しでも関わりを持てたことに大変感謝しております。

今から50年前の1972年について想いを馳せ、スマートフォンを片手にネットで検索すると、昭和47年は激動の年であったことに改めて驚きます。四半世紀にわたり米国の領土となっていた沖縄の日本への返還が5月にあり、長らく断絶していた中国との国交が回復したのもこの年の秋の出来事でした。また多くの若者たちを巻き込んで、戦後の大きなムーブメントとなっていた学生運動が厳冬に起きたあさま山荘事件をきっかけに転換期を迎えたのもこの年であったように記憶しています。

わが町、生駒に目を向けると、ちょうど前年の1971年11月には生駒町から生駒市になり、生駒山の麓の緑豊かな環境を求めて多くの方々が大阪などから移り住んでこられたのもこの頃でした。現在11万人を超える生駒市の人口は当時まだ4万人ほどでしたが、市内のあちこちで新しい住宅が建ち、それまでの観光地としての生駒や田園風景が広がるやや素朴でのどかな生駒から大きく変容しつつあることを住民は皆感じていたように思います。

そんな時代のなか、息子2人がともに、いこま保育園に通い、そこでの保護者会の活動を通じてご縁ができた中山園長先生の導きにより、1972年の夏に生駒山の中腹に建ったばかりの特別養護老人ホーム梅寿荘の見学の機会を得ることができました。そしてこの白く輝く真新しい施設への訪問は新しい時代の女性の生き方を模索し、より積極的な社会参加を求めている仲間と私にとって人生の大きなターニングポイントになりました。

ちょうど同じ時期にオープンした滝寺公園市民プールの近くに建った梅寿荘への坂道を連れ添って、当時流行したミニスカート姿で登ったことを今も鮮明に覚えています。開設間もない施設の様子を丁寧に案内下さった中山園長先生に、やる気はあるが経験はない私たちが思わず何かお手伝いできることはありませんかと尋ねたところ、入所者の方々に日用品やおやつなどを届けるのはどうかとのアドバイスの後日いただき、買物奉仕という形で、お手伝いチームが誕生しました。

昭和40年代半ば、ボランテアという言葉もまだ普及しておらず、こうした活動のお手本はまだどこにもほとんどなく、日々工夫が必要でした。当初、チームの活動として、まず入所者の方々に事前に御用聞きのように希望を訊いて、リストを作り、これをもとにあちこちで買い求めた品々を入所者の方々に手渡しでお配りするという買い物代行サービスを立ち上げました。ただこれではせつかくの週に一度の訪問なのに入所されている方々との交流も薄いと感ずるようになり、時には買い物リストを手には大阪市内にまで出かけて仕入れに行くのはいづれ負担になり持続可能ではないと考えました。また他の入所者の方が手にしたのを見て、私も欲しかった、それならば私も注文すれば良かった。注文はしたが届いたものを見るとイメージと違ったなどのご意見も寄せられていましたので、改善が必要になりました。そこで、新幹線のなかで

見かけた車内販売などにヒントを得て、それまでの買い物リストをもとに入所者の方々の好みにあったお菓子やパン、日用品などをちようど生駒に初めてできたスーパーマーケットを通じて一括して仕入れ、これを施設内で移動販売することを思いつきました。

お菓子などを山積みしたワゴンを押して、施設内を巡り、「お煎にキャラメル」のように売り歩く。かつて市場や商店、デパートで買い物をしていたように、たとえ一日のほとんどをベッドの上で過ごすことが多くとも、変わらず買い物を楽しんでもらう。自ら選んで、自分で財布から代金を支払い、お気に入りの品を手にお釣りも受け取る。枕元にまで訪問販売を仕掛ける少し奇抜なアイディアでしたので、受け入れていただけるとかどうか不安ではありましたが、ワゴンに積んだ品物から入所者の方々が自ら選んで購入するというサービスは喜んで迎え入れていただいたように、皆さんが財布を手にして私たちの訪問を心待ちにするようになったと聞いて感激したことを今も思い出します。特に、週に一度、売り子さんである私たちと買い物の合間に交わす短くとも何気ない会話を多くの方が楽しみにしておられたようで、買い物そっこのけで、おしやべりに夢中になり、時にはブラウスの袖を強く引き寄せ、移動販売に戻らせてくれないなんて嬉しい出来事も多くありました。

その後も細かな改善は繰り返され、1972年にほんの数人の仲間を始め、移動ワゴンによる販売サービスは4年にわたり続き、買い物部隊は最終的には4チーム制にもなりました。施設内に入所者の方への栄養管理がより厳密に進められることにより、今から10年ほど前にその役目を終えましたが、週に一度の梅寿荘での活動は私たちすべてにとつて貴重な経験であり、多くの忘れえぬ出会いがありました。

私自身今年で米寿を迎え、50年前開設したばかりの梅寿荘にあの当時入所されていた方々の年齢をほぼ超えることになりました。ただ、生駒を愛する気持ちは歳を重ねるごとに強くなり、今も生駒市の協力のもと、市民活動推進センターからポート2階で楽我生というカフェスペースを運営して、ボランテアにいそしむ方々が集える場を提供させていただいています。あのお買い物チームのメンバーもカフェの働き手として健在で、中山園長先生の勧めで始まった私たちの活動は今もまだ続いています。

ボランテアという言葉の意味は未だ分からず、確かに先駆者ではあるけれど誰かのお手本にもなっていないませんが、今後も誰かの役に立てることができれば幸いと考へて、引き続き新しい時代の女性の生き方を模索し、より積極的な社会参加を求めていくつもりです。



## ウイマラ大僧正追悼 『国際交流の道』

理事長 辻村 泰範

八月二十六日 京都においてウイマラ師を偲ぶ会が催された。コロナのこともあり案内は一部に限られてしまったが、各地の日本スリランカ仏教福祉協会支部代表者などが集まった。本来ならお声がけしなればならない多くの方々がいらっしゃったはずだった。会場では来日が叶わなかったNESEC財団の現在の運営委員会会長セートゥンガ氏がオンラインで参加し、葬儀の模様や現況報告もなされた。

前日には日本における我が家ともいふべき元興寺本堂に、家族だ兄弟だと自認する人たちが集まり遺影を前に手を合わせ、その別れを惜しんだ。

招かれて元興寺に来てから五十年。元興寺の故泰圓和上の生き様に接したこと、我が法人での実体験が母国での福祉事業実践の強い動機となったと彼自身がいろんなところで語っていた。母国に帰って児童福祉施設を建設して子どもたちの福祉や教育にその人生をかけたという熱い思いと夢は日本に来てから生まれたものであったという。

あたかも移植した苗木が立派な花を咲かせるようにと彼を継続的に支援する組織として生まれたのが日本スリランカ仏教福祉協会である。その事務局は我が法人にある。

国際交流や国際支援にはさまざまな形がありうる。社会福祉法人が実践する国際貢献の一つの形がウイマラ師によって生まれたとも言える。

我々が法人として直接資金を援助していたわけではない。我々がしてきたことは、彼が帰国してからも毎年来日して全国各地を訪ねて支援を訴え賛同していただいた個人や団体から寄せられた浄財をスリランカに送金する窓口になること、日本での募金活動をバックアップすること、彼が理事長を務めているスリランカの非営利法人DFOの財団の運営や活動に助言したり相談に乗ったりすることであった。

彼の施設から全国社会福祉協議会のアジア福祉施設従事者研修生に選ばれて来日した研修生たちの日本での施設実習を受け入れることがきっかけになって、その後もアジア各国の研修生の実習も受け入れるようになった。

「ピーちゃん」と親しみを込めて呼ばれたウイマラ師が拓いた国際交流の道だ。これからも途切れさせないよう道普請の呼びかけをしてゆかねばなるまい。

# 児童施設より

5p ■ いこま乳児院

7p ■ 仔鹿園  
■ でいあー

9p ■ 平城児童センター  
■ 児童発達支援いっぽ

6p

■ あすかの保育園  
■ いこま乳児保育園

8p

■ こども支援センターあすなろ  
■ 極楽坊あすかこども園

10p

■ いこまこども園

## 初めての遠足

コロナ禍で、敷地内での散歩しか行けない日々が続いていましたが、状況が落ち着いていた6月、1歳児2名とその担当保育者2名の計4名で公用車に乗って平群北公園まで初めての遠出です。大きな公園で、どんな反応を示すだろうと少し心配もありましたが、着いた途端に振り向きもせず芝生の上を嬉しそうに走り出す姿を見て、こちらまで嬉しくなりました。見慣れない遊具をしばらく様子見していましたが、保育者が誘うと徐々に滑り台やミニアスレチックに挑戦し始めて楽しむ姿が見られました。

また公園に来ていた少し大きい男の子が上手にブランコを漕いでいるのに見とれていたのが、「上手だね」と声をかけると「じょうず～」と言って拍手をしていました。何気ない事のように、子どもたちにとっては非日常の世界で、新しい経験ができた初めての遠足でした。



## いこま乳児院

保育士 窪田 多貴子

その後、7月にはとうとうコロナが当院でもクラスター状態になりましたが、幸い子どもたちは皆軽症でした。職員は、これも初めての経験で協力してコロナと立ち向かい、ひと月足らずで終息しました。

まだ不安の続く毎日ですが、感染対策をしながら、子どもたちの新しい経験を積み重ねていきたいです。



## 実習生の受入れ・・・保育の振り返り

毎年実習生の受入れをする上で、実習生には保育士になるという『夢と希望』を持ってもらえるようにすることを大切にしています。

しかし「学生さんを育てるとはどういう風になればよいのか？」と保育士間でも指導の仕方の違いなど戸惑いがありました。まずは保育士が日々の保育を笑顔で楽しんでいる姿を見せることを一番に考え、またこどもの様子や関わり方を丁寧に伝えることで、安心して実習ができる環境を整えることを大切にしながら指導ができるようにしました。

実習生は、保育士の姿を本当によく見ていて、言葉や行動を素直に受け止めていると感じる場面がたくさんあります。実習生を受け入れることで、自分自身の子どもの受け止め方や、言葉のかけ方、また保育士の動きなど、自分自身の保育を振り返り、再度確認することで自分の保育の質の向上に繋がっていきと改めて感じています。

## あすかの保育園

園長 小林 美香

実習を通して、保育士の仕事が子どもの成長と共に喜び合える素敵な仕事であり、やりがいがあることをしっかり伝えられるようにすることで、人材育成や人材確保に繋がられるようにしたいと思います。



みずあそび楽しいね

## つながる保育

私は現在、大阪保育運動センターの美術部会に参加しています。毎月様々な園から子どもたちの描画や製作を持ち寄って、理解を深めていくための勉強会です。毎年春ごろには、専門分野を学ぶ領域別講座というものが開催されるのですが、今年度の美術の講座で、昨年度担任をした2歳児クラスで取り組んだ感触遊びについて、実践報告として受講者の方々に発表する機会をいただきました。私にとってはとても刺激を受けた経験で、これまでの保育に講評頂くとともに、自らを振り返るきっかけとなりました。発表の内容をまとめながら、子どもたちのことを考えて保育に臨む楽しさを思い出すことができました。今年から、園内でも各クラスの描画など日々の活動を定期的に持ち寄って話し合っています。うれしかったこと、気になったこと、子どもたちの様子を共有することで成長に気づき、喜び合って支え合える憩いの場になりました。

今年度は0歳児の担任をしています。先輩の先生方にいつも助けていただき、子どもたちからの

## いこま乳児保育園

保育士 田中 麻衣

発見も多いです。興味を持って遊べる玩具や活動を考えたり、その日の出来事を伝え合ったりしながら、子どもが安心して過ごせる環境についても見直すことができました。

目まぐるしい日々の中で、一人一人の表情やしぐさを受け止める大切さと難しさを感じてきました。まだまだ手探りで課題もありますが、後半もみんなで子どもたちを見守っていける環境作りに取り組んでいきたいと思っています。



## 夏のお楽しみ

子ども達の夏の一番の楽しみはプール遊びです！コロナ禍ではありますが、感染症対策をしながら毎日プール遊びを楽しんでいます。今年の夏もプールでは子ども達の賑やかな声が響きわたっていました。浮き輪をつけ水中で浮いて遊ぶ子、手で水面を叩いて水の感触を楽しむ子、水鉄砲でお友だちや保育士に水をかける子などその様子は様々ですが、皆自分のペースで楽しんでいます。雨の日やプールに入れない日は大変です。玄関で寝転がって怒る子どもを抱え、保育室まで走る保育士…額には大粒の汗…。そんな日々を繰り返しながら学んでいく子ども達。お天気によって予測出来るようになったり、気持ちの切り替えが出来るようになったりと成長していきます。そしてプールでおもいきり体を動かして遊んだ日は、心も体も満たされて穏やかな良い表情をしているのです。その姿を見て保育士の心も満たされ、みんな笑顔に！（大人の体力は削られます

## 仔鹿園

保育士 永田 佳子

が…)プール遊びは仔鹿園にとって欠かせない夏の「お楽しみ」なのです。

あっという間に今年も8月が終わり、プール遊びも終了です。仔鹿園の夏も終わりました。これから始まる秋、そして冬も更に楽しい毎日になるように頑張っていきたいと思います。



## 当事者会「ならサタ」へようこそ

でいあーでは発達障害に関わる当事者会「WITH」と「ならサタ」を運営しています。2つの当事者会のうち、今回は「ならサタ」をご紹介します。「奈良(なら)」で「土曜日(サタデー)」に開催する「ならサタ」という名前で2019年から活動を開始しました。毎月10~20名の当事者が集まり、近況の情報交換や発達障害に関する話題を話し合っています。コロナ禍以降はオンライン開催を取り入れ、現在は現地会場とZoomで参加方法を選べるように実施しています。

昨年度はオンライン開催に慣れる期間で、色々な試行錯誤がありました。今年度はみんなが慣れてきたおかげで、話し合いの内容に変化が生まれたように感じています。参加者のみなさんの意見を取り入れ、新しい試みが生まれました。5月の開催では各自の近況やオススメの書籍を自由に共有するフリートークが盛り上がりしました。7月の開催では「学習での困り事」という初めて話し合うテーマに挑戦しました。「勉強するときの

## でいあー

相談員 菅原 史登

発達障害あるある」の共有や「自分に合った学び方」で話し合いが広がったと感じています。

新しいテーマに取り組みながら今年度前半を終えた「ならサタ」ですが、後半では満足度アンケートを初めて実施する予定です。これからも参加者のみなさんの意見や満足度を反映した当事者会にしていきたいと思っています。



当事者会はZoomでも開催しています！

## 子どもたちと一緒に日々成長

昨年度に引き続き、こども支援センターあすなろメディカル(他の保育園やこども園、幼稚園に所属し並行であすなろに通園)年長児のクラス担任になりました。学年は同じでもクラスカラーの違いに戸惑いを感じながら手探りで過ごしていましたが、少しずつクラスもまとまりつつあります。

今年度の目標として、「様々なルール遊び」「お友達と一緒に協力する事が楽しい」「聞く分かる」という手ごたえを掴む経験を積み重ねられるような遊びを、クラス担任全員で日々考えています。子どもたちの姿をとらえきれなかった4月当初は遊びの中で子どもたちが「手ごたえを掴めていない」と感じる事も多々ありましたが、少しずつこちらの思いと子どもたちの姿が重なり



スリッパとばし

## こども支援センターあすなろ

保育士 名城 沙月

遊びに手ごたえを感じる様子が見られるようになってきました。ゲーム遊びでは、勝ち負けの表出もはっきりしてきて「負けて悔しい、もうしたくない」という姿から「負けて悔しいけど、次もする」という姿に少しずつ変わってきました。また、BBQごっこやお風呂屋さんごっこなどのごっこ遊びからもお友達との関わりを楽しむ姿が増え嬉しく思っています。

遊びがマンネリ化しないよう、ポッチャや靴とばし、ダイナミックな紙あそび、野球ごっこなど様々な遊びに取り組んでいます。子どもはもちろん、保育者自身も「面白い」「楽しい」と思う遊びと一緒に経験し、日々の成長に繋げていきたいです。



ペーパーパラダイス

## おじいちゃん、おばあちゃん、だーいすき

## 極楽坊あすかこども園

園長 辻村 泰聡

9月8日に、コロナ禍のため中止していた「敬老のつどい」を3年ぶりに開催しました。開催とはいえ、感染対策のため年長児青組のみ、クラスごとの入れ替え制という、まだまだ縮小した形式となりました。この3年の間、園での行事は同居家族のみやオンライン配信など、おじいちゃんやおばあちゃんが直接参加できるものがほとんどなくなってしまいましたので、今回はとても貴重な参加型の行事になりました。

子どもたちの楽器演奏から始まり、その後ふれあいあそびを楽しみました。子どもたちにマッサージしてもらったり、反対にしてあげたりすると、参加の祖父母の皆さんの顔がみるみるほころんでいきました。お帰りの時にはニコニコえびす顔があふれていました。

「ふれあい」はコロナ禍に入ってから「密」と名を変えて悪者扱いされ、不要不急だと遠ざけられています。しかし、この見えない力は決して「不要」ではない、心を満たしてくれる大切なものと改めて感じさせられました。





## 平常な活動への取り組み

センターのこの二年間の活動は新型コロナ感染症の影響を受け、時間の短縮や今までやってきた内容を大幅に変更のうえ実施してきました。

子どもたちの「希望する活動」のアンケートや保護者の方に希望を聴くと「ソーメン流し」「餅つき」「カレー作り」などの飲食を含む活動や「夏祭り」「キャンプ」などと野外での活動などが多くあげられました。昨年曾爾キャンプを中止したときは「大変残念」との声が多くありました。今年度は感染対策には十分に注意を払いながらできるだけ従来の活動・平常に戻そうと考えて実施してきました。

野外での活動を中心に創作活動やカレー作り、夏祭りでは「スーパーボールすくい」「ヨーヨー釣り」とともに、スイカ割りを復活させました。子どもたちから多くの歓声があがりました。

また祭りの日に偶然蝉の羽化を見つけました。羽化したてのセミは透き通るような色、徐々に白

## 平城児童センター

センター長 俣俣 おさむ

くなり、一時間少して色づきはじめました。子どもたちは変化していく姿を観察でき、保護者の方も喜ばれていました。

今後は深まりゆく秋とともにキャンプや様々な体験活動を行っていきたいと考えています。



セミの羽化見つけた!

## すいか割り

夏休みの楽しいイベントの1つに、今年初めて「すいか割り」を加えてみました。親子遠足で電車に乗り、大阪まで行く予定がコロナで断念。何か楽しいことないかなーと考えました。すいかは知っているけどすいか割りって!?平成から令和の子どもには特に??だったようで、逆に全員が興味津々。もちろん、目隠しを嫌がる子もいたり、大きな棒を両手で振りかぶってエイッ!とスイカを叩くのは至難の業です。なかなか割れないので、



さあ、割るわよ~!

## 児童発達支援いっぼ

児童発達支援管理責任者 長野 智子

誰かが叩く度に「エ!?割れた!?!」と、度々覗きに来る女子。そして割れた瞬間、大歓声が上がりました。やって良かったなあと思うことが2つ。①すいか嫌いな子が友達の様子を見て「ガブリ!」とかじって挑戦した事。②丸ごとのすいかが強く印象に残り、スーパーで「あの丸いすいか買って~!」と、お母さんを困らせた可愛いエピソードが聞けた事。この夏の、いっぼの思い出でした。



スイカ、最高!

## 戸外ではマスクを外してのびのびと

今年度前半は、感染拡大の状況を見ながら、少しずつ園児の活動の範囲を広げていきました。戸外で遊ぶ場合はマスクも外して活動しました。年長の青組は園庭でリレー遊びやボール遊び、年少の赤組は園庭の遊具や三輪車で遊び、2歳児のきりん組は園庭に水をたっぷり撒いてどろんこ遊び、それぞれの年齢に合わせてたっぷり遊びました。各年齢の遠足等も復活し、近くの公園をはじめ、川遊びや滝寺キャンプ場などへも散歩に出かけました。秋には山上遊園に遠足に出かけます。また、今年度は健民グランドでの幼児組の運動会に加え、乳児組の運動会を園庭で開催する予定です。マスクを外した子どもたちが楽しそうに笑顔で活動する姿を見て本来の園の姿が戻ってきたようでうれしくなりました。

コロナの流行前は祖父母参観を開き、3・4・5歳の子どもたちとその祖父母の方をお招きして一緒に歌ったり、ふれあい遊びをしたりして楽しい時間を過ごしていました。子どもたちが製作したうちわやお花をプレゼントしていました。



きりん組園庭でどろんこ遊び

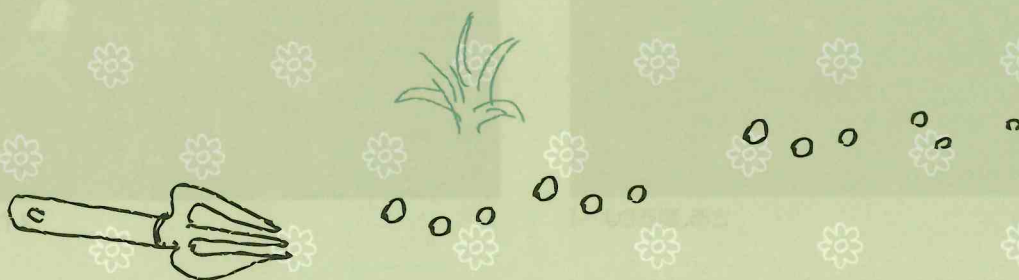
今年度は、祖父母参観を開催する計画を立てていましたが、あいにくコロナの第7波の影響で中止にしました。代わりにそれぞれ年齢に応じてカードを製作し、プレゼントすることにしました。おじいちゃんおばあちゃんの顔を思い浮かべながら楽しそうに作っている様子から、おじいちゃんおばあちゃんのことを大好きなことが伝わってきます。また、園にお招きできる日が早く来ることを願っています。



青組は滝寺キャンプ場へお散歩



祖父母へのプレゼントカード



# 高齢者施設より

11p

■ 梅寿荘デイセンター  
■ はあとぼーと梅寿荘

13p

■ デイセンター寿楽  
■ デイセンター延寿

12p

■ 生駒市梅寿荘地域包括支援センター  
■ デイセンター憩の家

14p

■ 特別養護老人ホームあくなみ苑  
■ 梅寿荘居宅介護支援センター

## コロナウイルス感染症と向き合う日々

### 梅寿荘デイセンター

介護職員 中村 宗司

令和4年度上半期を振り返ると、梅寿荘デイセンターではコロナウイルス感染症に悩まされた日々でした。二度にわたり休業を余儀なくされ、その際にご利用者及びご家族、各所関係者の方々に、ご迷惑をおかけしました。休業した時期がちょうど夏祭りを企画していたタイミングでした。感染症対策に留意しながら、多くの時間をかけて夏祭りの準備をしてまいりました。中止せざるを得ない決定をした際は残念な気持ちで肩を落とす日々でもありました。ですが、今は何を優先すべきなのか？まずやるべき事は何かを改めて考えさせられた日々でもありました。

私達デイセンター職員の仕事はご利用者の在宅生活の支援にあります。デイセンター以外にも多種多様のサービスを提供する支援者が、利用者の在宅生活を支えています。もし、検査により陽性になる可能性がある際は速やかなる関係各所への連絡が最優先事項であると改めて学びました。日々の感染症対策はもちろんの事ではありますが、このご時世、誰しもがコロナウイルスに感染してもおかしくない状況であります。感染が分かってから慌てるのではなく、感染者が出た際に迅速に動けるよう、関係各所への連絡網整備など、今回の経験から得られた知識を次に生かせるようにしたいです。

## 暑さとコロナ禍での訪問

### はあとぼーと梅寿荘

主任サービス提供責任者 金田 智子

今年は、早い梅雨明けのせいか6月から猛暑となり暑さとコロナ禍の中での訪問が続きました。職員は、毎日の体調管理に注意してコロナ感染防止に務めています。マスク生活が長く、ご利用者との会話では表情がわかりにくいですが、マスクの下は常に笑顔で接するようにしています。このような努力のせいか幸いにもヘルパーからご利用者への感染事例はありませんでした。しかし、家族の感染の濃厚接触者になり仕事を休むことや、ご利用者が他事業所のサービスをご利用で、コロナ感染の濃厚接触者と判明し検査対象になった事もありました。ご利用者宅への訪問日を確認して、訪問したヘルパーが他のご利用者の訪問に行かないように細心の注意を払って手配をしました。他の施設を

利用されている場合は、次から次へと変わっていく状況の正しい情報を把握することが困難で、担当ケアマネージャーや各施設間での連絡を速やかに行うことが重要だと感じました。

コロナ禍の中では、家族の訪問も難しくなり、外出の機会が少なくなったことで、継続して訪問している方がだんだんと一人で生活することが難しくなったケースが増加してきました。酷暑の中、冷房ではなく暖房にしている方、水分や食事の摂取ができない方、排泄行為が困難になった方などの対応を試行錯誤しながら、ヘルパー同士で情報を共有し、ご家族やケアマネージャーとの連携を取り合い安全に生活して頂くように訪問をしています。

## 高齢者の支援をより良いものにするために

### 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

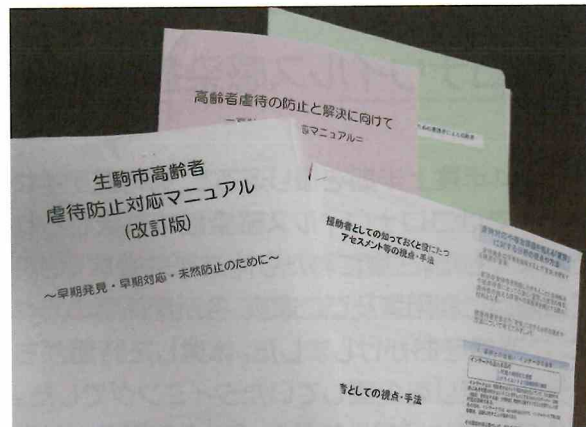
介護支援専門員 前川 志乃

R2年度から市と市内地域包括支援センター権利擁護部会、担当の居宅支援事業所の3者で取り組んでいた、高齢者虐待防止マニュアル改訂版が完成しました。高齢者を取り巻く環境が多様化する中「高齢者虐待」について正しく理解し、専門職としての役割、より一層の高齢者虐待に対する関係機関の連携強化と虐待ケースへの支援体制の強化を図ることができるように支援者が活用できる内容となっています。

そして、マニュアルを配布するだけでなく、3者が協同して、実際にマニュアルを使いながら、高齢者虐待防止研修会の開催を予定しており、実のある研修になる為、研修内容の話し合いを重ねています。虐待対応への知識を高めると共に共通認識をもってより円滑な虐待対応が行えることを目指しています。

実際担当している利用者に虐待に関連した事象が起きると、「どう対応したらいいのかわからない」

と不安になります。しかし、このようなマニュアルや研修会で知識を持つことで、落ち着いた対応ができると思います。虐待の早期発見、早期対応、未然防止の為に関わる機関それぞれが考え、できることを今後も継続して推し進めていくことが大事ではないかと思います。



高齢者虐待防止マニュアル改訂版

## ご利用者の引き出し

年間を通し、季節の行事をご利用者に楽しんでいただくとう企画しますが、今年もあまり大規模にはできませんが、七月には前半に七夕祭り、後半には夏祭りを実施しました。七夕の短冊にお願い事を、ご利用者皆さんに書いていただいた時の事ですが、あるご利用者が、短冊に「憩の家…」とまでは書いてくださったのですが、私がお先に興味を持ちすぎ、続きを知りたいことをご本人に伝えると、筆が進まなくなってしまい、その先は書き出せなくなってしまった事に。なぜ私自身がお利用者の動きを黙って待つことが出来なかったのか、何気ない活動の中で深く反省しました。

夏祭りでは、室内に提灯の飾りやスタッフがハッピーを着、憩の家スタッフのOBも駆けつけてくださり、盛り上がりました。その中でもご利用者

## デイセンター憩の家

相談員 友國 和之

にも浴衣を着ていただくとう準備をしているときに着付けて下さったのもご利用者で「昔取った杵柄ですね」と笑顔でした。

七夕と夏祭りでは、私にとって相反する事が起きたように思うのですが「ご利用者の引き出し」はこちらが勝手に開けてはならず、ご本人に開けていただくための工夫が必要であると感じることができ、今後のために良い勉強になりました。

少し視点がずれますが、認知症介護で「何か物を取られた」と言われる事例をよくお聞きしますが、実際に無くされたのは「ご自身の思い出や記憶」かもしれません。「そんなの誰も取らへんよ」と言いたくなりますが「一緒に探しましょう」と言う事が出来れば良い関係が出来るかもしれないと思う今日この頃です。

## ハードとソフトのブラッシュアップ

今年度も気が付けば9月に入り、上半期を終えようとしています。ご利用者を送迎していると、太陽が沈む時間が日を追うごとに早くなっていて、秋の気配を感じるようになりました。思えばこの夏は気象庁ですら梅雨明けの判断を誤るような異常な暑さが6月下旬から続き、8月は連日の猛暑日でしたが、利用者の皆様に大きく体調を崩される方はおられませんでした。まだまだ残暑が続きますが、利用者の皆さんと一緒に秋を迎える事が出来て嬉しく思います。

さて、デイセンター寿楽の上半期を振り返ると、年度初めに施設の修繕工事から始まりました。デイセンター寿楽は今から23年前に生駒市有里町の公民館を改築してデイセンターとなりましたが、所々老朽化が目立つようになっていましたので、生駒市と相談をして屋根や一部外壁の修繕工事をしていました。こうして4月から始まった工事も9月初めに無事に終了し、施設外壁にあった足場やシートも解体されて、窓からの光がたっぷり入るいつものデイセンター寿楽に戻る事ができました。工事期間中は騒音や工事関係者の出入りにより、利用者の皆様や地域の皆様にもご迷惑をおかけした事と思いますが、ご協力ありがとうございました。

## デイセンター寿楽

主任生活相談員 中島 淳

一方で私たち職員も日々の業務をしっかりと点検し、改善しております。前記もしましたが、この夏は本当に危険な猛暑日が続きました。独居のご利用者も多数居られる中で、一人も熱中症になる事がなかった背景には、ご利用者一人ひとりに日々向き合っ、課題点に気付き、それをご家族や担当ケアマネジャーに発信する仕組みを夏前から職員間で話合っていたからだと考えます。これからもデイセンター寿楽をご利用頂く事で、安心安全に在宅生活が継続できる様な施設でありたいと思います。



## 手間暇惜しまず丁寧に

コロナ禍において様々な制限がかかる中でも、「延寿に来て楽しかった!」と笑顔になって帰って頂く為に、職員一丸となって創意工夫をしています。日常的な、映像脳トレやプリント問題・カレンダー創作・体操に加え、昨年から実施している中庭整備や畑での野菜作りも継続しています。今年はサツマイモと新たにジャガイモを育てて、利用者様と一緒に収穫を行いました。下半期も、色々な行事を計画中です!

また、奈良県災害派遣福祉チーム(奈良DWAT)でのマニュアル作成に参加したり、奈良県福祉・介護のお仕事PR隊として、学生に対して、介護の仕事の魅力を伝える活動も行っています。さら

## デイセンター延寿

サブリーダー 矢野 健太郎

に、福祉系短大・大学へ訪問し求人票の配布・ボランティア募集を行ったり、サマーインターンシップin奈良に登録し、将来の介護職・人材確保にも努めています。

職員の人材育成においても、コロナ禍でもその手を休める事なく、年間計画に基づき職員研修を行い、集合研修からプリント配布・事後課題提出や、外部研修への参加、人事考課の習熟を図ったり、職員の資質向上に努めています。

デイセンターに加え、訪問入浴と総合事業も実施していますが、そのどれもが在宅生活を支える事業であり、利用者様に満足して頂けるようなサービス提供を今後も目指していきたいと思っております!!

## コロナ禍の日常

コロナ禍の日常は、もはや当たり前の日常になってきています。マスクにフェイスシールド。これが無いと逆に落ち着きません。制限だらけの日常。でも、その事がご利用者にとっての当たり前になってはいけません。あくなみ苑にどう理由であれ、来て頂いたご利用者にとって最後の棲み家であり、ご家族にとっても限りある人生を豊かなものにして欲しいと願われている方も多いと思います。そして、面会などを通じて日々の生活が『見える』事が、何より安心して頂ける事に繋がると考えています。あくなみ苑では、今年も夏祭りをご家族と一緒に楽しんで頂きました。コロナ禍の中、中止にするのは簡単です。でも、あくなみ苑ではそのような空気は全く無かったと感じます。いか



夏祭り・花火

## 特別養護老人ホームあくなみ苑

特養介護主任 松本 直大

にして夏祭りの雰囲気壊さず、安全に開催するか？開催する事を前提に話し合い、結果、無事に夏祭りを終える事が出来ました。夏祭り前から大きなポスターで開催の告知をして、館内もちょうちんを吊るして雰囲気づくりをして、開催前から「夏祭り楽しみやわー！何食べようかな？」等の声も多く聞かれ、開催後は「こんなに楽しかったの久しぶりやわ！」との声も多く聞かれました。

あくなみ苑では現在のところ、クラスターは発生していませんが、いつ発生しても不思議ではありません。感染対策・クラスターが発生した時のシミュレーションは怠らず、ご利用者の豊かな生活を実現できるように努めていきます。



夏祭り・盆踊り

## 他法人との合同研修を終えて

コロナ禍にあっても、同じ生駒市の居宅介護支援事業所で勉強会ができないかと、昨年よりWebにて研修を行う取り組みをしています。今年は、私達梅寿荘居宅とあすかケアプランセンターが係となり、6月より話し合い～訪問看護について～というテーマで事前アンケートをとり、7月12日に6事業所で話し合うことができました。

病院では面会もままならない現在、自宅で介護や看護を利用したいという家庭が増えています。私達ケアマネージャーもご利用者やご家族の気持ち、必要性も考え訪問看護を利用するプランを立てています。どんな時に利用しようと思うか・プランにどのように導入するか・事業所はどのよ

## 梅寿荘居宅介護支援センター

介護支援専門員 山蔦 洋子

うに選ぶか・特別な疾患のある方にはどう対処しているか等を話し合いました。色々な事例の紹介を交え、訪問看護師からも専門的な事を聞くことができ、他事業所も同じように悩みながら対応されていることがわかりました。短い時間の中でしたが、他事業所と繋がり話し合えたこと、教えていただいたことが、これからの私達の業務にも生かせる有意義なものとなりました。

本当は顔を合わせ話ができる状況がBestなのですが、無理な状況下においても、オンライン等を活用し、事業所同士も連携を深め情報交換を行いながら、より丁寧な支援ができる様取り組んでいきたいと思いました。

# 法人栄養士研修

## 令和4年度法人衛生研修を終えて

梅寿荘 管理栄養士 数田 好美



令和4年6月10日(金)にあすなろ館にて、花王プロフェッショナルサービスより講師を迎え「食中毒と衛生管理」をテーマに講義をしていただきました。

各施設の栄養士、調理師、調理員、保育教諭合わせて20名が参加し、体調子エックと消毒、換気を徹底した上で開催し、今回初めて当日に参加の難しい方を含め多くの方に講義内容を学んでいただけるように講義を動画撮影し、後日動画配信サイトにて期間限定で配信するという試みに挑戦しました。

そもそも食中毒とは食中毒の原因となる細菌やウイルスが付着した食品や、有毒・有害な物質が含まれた食品を食入ることによって起る腹痛・下痢・嘔吐などの健康被害のことをいいます。昨今衛生に対する意識は高まっていますがそれでも毎年多くの食中毒事件、患者が発生しています。発生状況を月別で見ると、細菌

性食中毒は梅雨など高温多湿となる夏場、ウイルス性食中毒は空気が乾燥する冬場にそれぞれ件数が多く、食中毒は季節を問わず発生しています。

食中毒には細菌性、ウイルス性、自然毒、化学物質、寄生虫の5つの分類があります。5つ中で食中毒事件数の多いものが細菌性とウイルス性の食中毒です。細菌性食中毒で発生件数が多いのは食肉(特に鶏肉)が原因食品となるカンピロバクターによるものです。食肉を生の状態や加熱不足の状態でご飯や調理中の取り扱い不備などが原因となります。生食と調理した肉類は別々に保存すること、食肉を十分に加熱することが予防のポイントとなります。ウイルス性食中毒はノロウイルスによるものがほとんどです。汚染された二枚貝(カキ、ハマグリ等)を生あるいは加熱不十分で食べることが原因となります。二枚貝を生食しないこと、手洗いの励行・衛生手袋の着用、

洗浄剤・次亜塩素酸ナトリウムを使用し調理器具や環境を清潔にすることが予防と対策になります。寄生虫アニサキスによる食中毒も増加しているため、必要があります。アニサキスは魚介類の内臓に寄生し鮮度低下により筋肉に移動するため、新鮮な魚を選び、速やかに

内臓を取り除くこと、幼虫を目視で確認すること、十分加熱調理または冷凍することが予防ポイントとなります。

食中毒を防ぐために最も重要で基本となるのは手指衛生です。手のひらには1平方センチあたり約5万个の細菌がいます。指先や指の付け根は手洗いが不十分になりやすい箇所であるため注意が必要です。食中毒予防のためこまめに手洗いをする必要がありますが、手荒れの原因にもなります。手荒れした手指からは黄色ブドウ球菌という細菌が検出されやすく、これも食中毒の原因菌です。ハンドクリーム等を使用し、手指のケアをすることも食中毒を防ぐポイントとなります。

今回の研修を通して、食に関する仕事に携わる上で最も大切なことは『安心』『安全』な食事を提供することであり、衛生的な状態を保つことは食品取扱者の責任であること、食事を食べられる方の命を預かっている仕事であることを自覚し、食品事故が起らないよう徹底する必要があることを改めて学ぶことが出来ました。

最後にご協力いただいた施設の方にお礼を申し上げると共に沢山の方にご参加いただき研修会を開催できたことを感謝致します。

令和4年度ステップアップ研修

法人研修委員

一こども支援センターあすなろ

テイセンター寿楽

樋高 智代  
井上 貴至



令和4年7月5日にステップアップ研修を開催しました。法人研修委員会では、職位に応じた階層別の研修を実施していますが、今年度は、現場の中級職員を対象として、「アセスメントの基本姿勢と記録の取り方を学ぶ」というテーマで、奈良県発達障害支援センターであーの森山貴司センター長に講義をしていただきました。

まず始めに、障害についての基礎的理解として、馴染みのあるアニメのキャラクターを用いて紹介してくださり、実際に身近なキャラクターでイメージもやすく、そのキャラクターの思いや考え、弱みや強みを考える機会となりました。

また対人援助の基本とする「アセスメント」の知識を学びました。

「アセスメントをする」ということは、一つ一つの情報を自分なりに解釈して生じている問題をまとめ、支援課題を考えていく、その人がどんな人でどんな支援を必要としているか深く掘り下げていくことです。その対象者は、児童・障がい者・高齢者全てに共通します。

対象者を支援していく為には、私たちの専門性も問われます。如何に視野を広げ、対象者の強みを発見し、本人の思い、ご家族の思いに気づき、それに寄り添っていくということなのです。

最後のグループワークでは、実際に活発な意見交換の場を持つことが出来ました。また情報交換をする中で、チームでの情報共有の大切さも学びました。

ステップアップ研修としては、実に3年振りに一日を使い、対面での講義方式で開催することができました。参加した職員からは、「講義で普段関わらない児童・障害者・高齢者それぞれの基礎的な理解ができた」「気づいたことを記録に書き、それをチームで共有することの大切さを理解できた」との声がありました。

久しぶりの一日研修で職員の皆さんお疲れ様でした。ステップアップ研修で学んだことをそれぞれの事業所で活かし、活躍を期待しています。



# 「アセスメントの基本姿勢と記録の取り方を学ぶ」

ステップアップ研修に参加して感じたこと、  
そして自分にできること」

児童養護施設 愛染寮

栄養士 寺嶋 晴香



7月5日に法人研修委員会が主催する「令和4年度ステップアップ研修」に出席しました。

奈良県発達障害者支援センターでいあーの森山貴司センター長に「アセスメントの基本姿勢と記録の取り方を学ぶ」というテーマで講義していただきました。

アセスメントをするにあたり、人には出来ること出来ないことがあるということをまず理解することで支援に生かせるということを、発達障害を例に学びました。

出来ること出来ないことの差は人それぞれで、私自身も発達障害を判定する項目の中に当てはまるものがいくつかありました。人は自分に対して他人に対してもマイナスイメージな部分ばかり目につくことが多いですが、人のプラスの面をたくさん見つけることで人間関係も良くなるということがアセスメントの基本であると学びました。

研修の中では事例検討もしました。様々な人と関わるが多くなるとたくさん良い面もありますが、先入観

をもってアセスメントしてしまう傾向があるなと感じました。

その人がどんな人なのか客観的に理解するためにもスキルが必要で、その人がどんな支援を必要としているかを見極めるためにも、頭で考えるだけでなくアセスメントシートを活用し明確化する事や、様々な人から見た情報を収集し、精査することの大切さを知りました。

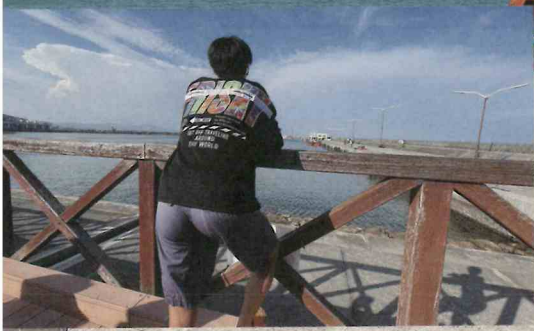
コロナ禍でなかなか研修自体が開催されにくい現状の中、私自身もウェブで研修や会議に参加することが何回かありましたが、やはり対面での研修は知識やスキルの向上だけでなく人脈を広げる、情報交換、コミュニケーション能力の向上といった面でも大変大切なのではないかと今回久しぶりに対面での研修を受け、感じました。以上のように今回の研修で学んだことを今後の業務に生かしていきたいと思えます。

ありがとうございました。

# オミクロンをぶっ飛ばせ！ 愛染伝説「海への里帰り」

## 毎への里帰り

白い砂浜青い海in大浜海水浴場



男は背中で語るものin洲本の港

児童指導員  
中嶋 健太

オミクロンは怖いけど、8月3日〜5日、淡路島まで行ってきました!!

とは言え、バスチャーター、宿は一棟貸し切り、部屋も完全ホーム別…と可能な限りの感染対策を施しての上です。

バスの中でも飲食禁止、全員が窓側に座ること、マスク着用しておしゃべり禁止という厳しめのルールで盛り上がり欠けるスタートでしたが、各々淡路島までの景色を楽しんでいました。道中、高速道路から海遊館や観覧車を見つけ密かに喜んでる子どももいました。初日の昼食は関西の中華料理の本場神戸の萬寿殿で舌鼓み、回転テーブルを触り「十二コシーっ、回るやん！」と驚きと嬉しさを隠せないようでした。

神戸を後に向かったのは淡路サービスイリア。明石海峡大橋を背景に写真を撮ったり、早くもお土産をみたり、スタバでフラペチーノを買ったり時間が足りないくらいでした。

そして次は北淡震災記念公園 野島断層保存館の見学です。ここでは阪神淡路大震災の時にできた断層や当時のまま壊れかけた家を保存している様子を見ることができました。私は小学6年生の時の修学旅行以来20年ぶりです。変わらぬ震災時の悲惨な様子を見たり、津波が起きた時の想定映像も見ることでできました。地震体験もできませんでしたが、子どもたちにとっても貴重な体験だったと思います。

3日間お世話になる旅館【淡路島洲本温泉別邸海月館】に到着後、夕食までの空き時間で旅館の近くを散歩したり、旅館から5分の海を見に行ったり…海からは洲本城を望むことができました。明日の海水浴が待ちきれず、服のまま海に入つて一足先にはしゃぐ男子児童が…。「海がほしいー」奈良真良の海への憧れは常軌を逸してるかもです。1日目の夕食

は旅館で和食膳をいただきました。これまた普段あまり食べないお刺身(鯛の姿造り)に子どもたちは歓喜、夕食後は各部屋でゲームをしたり温泉に入ったり、おやつを食べたり夜の散歩に出かけたりと余暇時間を楽しんでいました。

お待ちかね2日目のメインは海水浴です。朝食後、自分の浮き輪を膨らませ、膨らませ、膨らませ…酸欠でクタクタになりながら浜辺へ向かい前日の天気予報は雨でしたが、さすが快晴!!雲一つない青い空の下で楽しい海水浴が始まりました。洲本の大浜海水浴場の海水はとても澄んでおり抜群の透明度を誇っていました。子どもたちは「冷たいっ」と初めはなかなか入りませんが慣れるとキャンキャンとはしゃいでいました。中高生は綺麗な白い砂浜でビーチバレーをしたり、浮き輪に乗って少し沖の方まで泳いでみたり、低学年は浅瀬で水を掛け合ったり、砂で山やダムを作ったりと様々な遊びが展開されていました。昼食は海の家で自由に注文スタイルです。そして夏の家といえば、かき氷も忘れてはいけません。イチゴ、味やブルーハワイ、抹茶などを頼んで舌を赤、青、緑に染めながらも。昼食後はビーチフラッグや飛び込み選手権など、後半もくたくたになるまで楽しく遊びました。

楽しい海水浴も終わりの時間です。旅館に戻り、温泉で汗と砂と塩を綺麗さっぱり流した後は海の見えるテラスでバーベキューです。海に沈んでいく夕日を見ながら食べる焼き肉は絶品でした。バイキングもついでにお肉だけでなくカレーやデザートも食べ放題でジュースも飲み放題。子どもたちは大喜び!皆、お腹がはち切れそうになるまで食べていました。

そしていよいよ海への里帰りも最終日。旅館に別れを告げて向かったのは淡路ワールド



恐竜に食べられた！inONOKORO



仲良し姉妹の震災記念館

■2022愛染寮・海への里帰り報告

- 日時 令和4年8月3日(水)～8月5日(金)
- 行き先 兵庫県淡路島方面
- 宿泊 淡路島洲本温泉 別邸海月館
- 参加者 小学生…10名  
中学生… 4名  
高校生… 9名  
職員… 5名  
計28名

■里帰り支出報告 (令和4年4月1日～8月31日)

収入	ひめゆり基金からの助成金	1,000,000 円
	愛染寮自己負担分	436,967 円
	合計	1,436,967 円
支出	海への里帰り (愛染寮)	1,436,967 円
支出内訳	宿泊費 (1泊2食付)	568,400 円
	貸切バス代及び通行料金等	289,810 円
	その他飲食代	285,998 円
	その他 (入場料金,損害保険等)	292,759 円
	合計	1,436,967 円

\*今回ひめゆり基金に3,802,200円の温かいご支援を賜りました。ほんとうにありがとうございました。

パークONOKOROです。3日目も天気に恵まれONOKOROではエントランスで恐竜の模型と記念撮影をしたり、世界遺産のミニチュアを見物、中にはコーヒーカーップを回しすぎて気持ち悪くなった小学生もいましたが各々アトフクシヨンに乗って楽しみました。昼食は遊園地内の海の見えるレストランで淡路牛のハンバーグ、明石のタコの唐揚げなど淡路島の特産品をたくさん使ったランチプレートでした。これもおいしくいただきました。昼食後はお土産選びの時間です。淡路島にきた記念のお土産を選ぶながら、「あれでもない、これでもない。これにしようかな。いや…でもなあ。」と限られたお小遣いと時間から最高のお土産を選ぶためにお土産屋さんで商品とにらめっこする子どもたちの姿が印象的でした。

最後になりましたがいつもご支援いただいているたくさんの方々のご協力のおかげでこのような幸せなひとときが持てたこと、心から感謝申し上げます。子どもたちは帰ってきてしばらく経ってからも「海里楽しかったな！また行きたいな！」と声を掛けてきてくれます。それほど海への里帰りは子どもたちの思い出に深く残っています。重ねてになりますが、ご支援してくださった皆様、本当にありがとうございます。

後は帰路に着くだけです。帰りのバスでは海水浴の疲れもあつてか、子どもも大人もぐったり就寝タイムです。夕食は近くのファミリーストランでの夕食を閉めに、今年の海里もお陰様で無事終了したという次第です。3日間を通して、お天気にも恵まれ、事故なく怪我無く体調不良なく、本当になりました。

\*大会テーマ\*

「生きる・耐える・喜ぶ」  
三つの力をはぐくむ

～豊かな発達へのアプローチ～

日時：令和5年1月22日(日)  
場所：奈良公園バスターミナル  
レクチャーホール

【発表 児童部門】

- 極楽坊あすかこども園
- こども支援センターあすなろ
- 児童発達支援 いっぽ



令和4年度 役員会等報告 (R.4.4.1～9.30)

【監査法人による会計監査結果等の説明と法人監事監査会】 令和4年5月26日(火) 桃李館研修室

監査法人彌榮会計社本井理事長から令和3年度の会計監査結果報告書を受理し、監査を行った経緯と報告があった。

その後、法人監事の上森健廣氏と谷川義明氏が、令和3年度の事業が適正にまた会計処理についても適正に行われていると報告があった。

【第1回 理事会】 令和4年6月10日(火) 桃李館研修室

- 第1号議案 令和3年度予算に対する支出超過について承認を求める件
- 第2号議案 令和3年度事業並びに計算書類等に関する監事監査報告の件
- 第3号議案 令和3年度事業報告について承認を求める件
- 第4号議案 令和3年度決算について証人を求める件
- 第5号議案 理事長及び副理事長（業務執行理事）の職務執行状況について
- 第6号議案 令和4年度定時評議員会の招集について承認を求める件
- 第7号議案 その他

【定時評議員会】 令和4年6月27日(月) 西大寺興正殿

- 第1号議案 令和3年度事業報告
- 第2号議案 令和3年度計算書類について報告
- 第3号議案 その他

【第2回 理事会】 令和4年7月29日(金) 文書理事会

- 第1号議案 極楽坊あすかこども園の移転新築工事に関する案件

◆編集後記

もうお彼岸も明けたというのに日中はまだ暑い日が続いています。毎年のことですが、毎日車を走らせている道なのに、お彼岸が近づくと「あれ、いつの間に咲いたのだろうか」と不思議に思うのです。燃えるように真っ赤な彼岸花が稲の緑と競うように咲いているのを突然目にします。

彼岸花には名前が沢山あり、一番良く知られているのは曼珠沙華でしょうか。壮大で神秘的で独特の雰囲気があり魅了されます。

天界に咲く花、天上の花として、めでたい兆しとされることもあるようですよ。

編集委員 森本

